

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	訪問発達支援おやこのにじ		
○保護者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○訪問先施設評価実施期間	2025年3月1日 ～ 2025年3月15日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	2 (回答数)	2
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童精神科従事、スクールソーシャルワーカー、保育園、幼稚園、児童発達支援、放課後等デイサービス等、多様な従事経験をもつスタッフが多く独りよがりの支援にならず、多視点で支援ができていると感じる。また、職種も、発達分野の作業療法士、臨床心理士、保育士等、偏りない支援ができる体制を整えている。弊社だけでなく、地域資源をフル活用できるよう他事業所との連携強化しより子供たちの暮らしがよりよくなるサポートができと考えています。	日常的に、スタッフ同士が支援の中で感じたことや疑問を、すぐに発信できる体制をオンライン、オフライン共に作っています。スタッフと保護者、先生達に負担をかけてしまわぬようメールや電話面談など、必要とされる支援体制を整えるよう工夫しています。	福祉サービス内で対応できていない、育児の課題解決ができるよう保護者のご要望を取り入れていきたい。現在、弊社にいない専門職、言語聴覚士、理学療法士や目育士などに必要に応じて各専門家にご相談しながら、親御さんが療育選択できるよう情報提供しています。
2	個別性の高い支援のため、保護者同士の繋がりや学びを共有できる体験の場が少ないが、専門性が高いスタッフができる価値を保護者支援として提供できると、今後より一層親子の成長に繋がると考えています。	子どもに関する時事ニュースや、療育の最新知見など新しい情報も取り入れるように職員や保護者全体伝達しています。直接支援と間接支援どちらも必要なお子様に対して、積極的に現場の先生とコミュニケーションをはかり報告するようにしています。	保護者の子育ての不安を取り除き、日々の関わりに生かすためには互いに安心安全に話せる必要があります。担当スタッフが、心悩みすぎてしまわぬよう繋がる機会をもっとつくります。サービス外の親子の活動を、つくり社会資源をつくります。
3	子どもの成長にあわせて、スピーディにモニタリングを行い支援方針や目標をきめて支援員と現場の先生、保護者に共有しています。	長期目標、短期目標ともに達成できた場合には、すみやかに保護者へ報告しています。連絡帳になるべく多くの写真や説明で、お子様の成長を共有できるように意識しています。	発達支援のため、ご自宅での関わり方や支援目標などを早めに共有できるよう、プランニングから共に計画できるとよいと考えています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援は、保育園や学校の先生と日々の情報共有が効果的支援に直結します。しかし、情報共有する時間が十分確保できているとは言えない現状があります。今後、定期的な支援内容や成果の共有時間を確保する体制が必要だと感じています。	発達支援と共に、子どもの発達段階(アセスメント)の共有が必要だと考えています。教育現場と療育現場では違う多様な視点で、現実課題を共有するコミュニケーションタイムが短いと考えています。	月に一度でも、先生と共有する時間が確保できるかどうか検討します。もしくは、連携会議で全体で子どもの成長を考える視点がもてる取り組みが必要です。
2	個別訪問がメインの仕事であるため、全ての児童をスタッフがみる事ができていません。互いの支援スキルや子供の特性を共にアセスメントすることができません。スタッフの支援スキルをあげていくために、スタッフ同士で学ぶ機会やコミュニケーションをとり、保護者支援ができるとよいと考えます。	必要以上にお子様の記録をみることがしていません。しかし、子どもの特性や発達段階にあわせて支援をかえていくスキルは、誰が必要で。違う職種だからこそその視点をとりいれて考える機会を多く取り入れる必要があります。	保護者様、現場の先生、訪問支援でできる支援の共有するシステムができるとよいと考えます。弊社だけではできないので、全体で取り組む工夫が必要と考えます。
3			